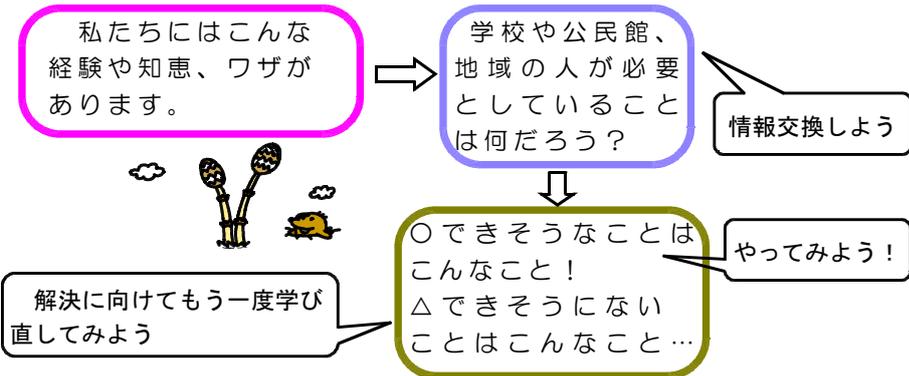




虹色

＝ 発行 ＝
 秋田県生涯学習センター
 〒010-0955秋田市山王中島町1-1
 TEL :018-865-1171
 FAX :018-824-1799
 E-mail :sgcen002@mail2.pref.akita.jp
 編集：社会教育アドバイザー

チョコボラ・研修会 in 潟上 つなげよう「ボランティアと生涯学習」



「皆さんは、地域のことをどれくらいご存知でしょうか？」こんな問いから始められた研修会は、ボランティアと生涯学習がつながっていることを実感し、地域づくりに生かしてもらいたいとの趣旨で開かれた『チョコボラ・研修会 in 潟上』です。2月27日、木のぬくもりのある昭和公民館にボランティア活動をおられる方々が集まりました。講師は、秋田大学教育文化学部准教授原義彦氏です。ワークショップでは、情報交換を通して、意外に知られていない地域の活動状況を共有することで、居住地区のニーズを考えてみました。さらに、一人一人のもっているものを動かしたり思いを伝えたりする活動は、自己開発につながることで、ボランティア活動に必要な知識や技能を学び合うことが生涯学習を深め、結果、地域の人と人とのつながりを広げることを確かめました。

「六〇の手習い」 橋本やエ



生涯教育の一環として開かれた公民館のお茶の講座に参加して二年半…。

六〇の手習いと簡単にとびこんでみたものの、そのほとんどが三〇代、四〇代の人たちばかりであった。自分の娘のような先輩たちの美しい立ち居振る舞いの中で、自分のふしくれたった手のふくささばきはすかしさ。運動不足の老骨の身のさばきは時折ひざの関節がカクンと音をたててみんなを驚かし、大笑いになる。一を聞けば二を知る若い人たちの中で、今さら『みにくいアヒルの子』のような存在に気のひける連続だった。

しかし、気長に指導してくださる先生、優しい心配りをしてくれる公民館の主宰さん、先輩の方々のいたわり、それに「いつでも、どこでも、だれにでも」という生涯教育の趣旨からくる肩張らぬ気やすさと、和やかさに心の安らぎを感じる。

不勉強な私には、難しいお茶の心も作法も解せないけれど「お服加減はいかがでございますか」「お点前ちようだいたいします」と、そのつかの間、遠い昔に忘れ去ったつまましい女らしさがよみがえり、その中にほのぼのとした老後の生きがいを見出す私なのである。

お正月帰省した息子たちも、おぼつかない私の一服から何かを飲み取ってくれたと思う。よき郷土に生まれ、よき時代に老いたる幸せを思い、遅きに失した悔いもあるが、「和敬清寂」にひたれるひと時を、私は気負わず、焦らず、この六〇の手習いを続けたいと思っている。

※ この文章は昭和五十一年に書かれたものです。

後年、旧琴丘町生まれの息子さんたちが母の記憶が薄れないうちにと考え、親しかった方々にのみお配りした本『かわらなでしこく橋本やエの八一年』から引用させていただきました。生涯教育から生涯学習への変遷はありましたが、学びつつそれをだれかにお返しする楽しさ・喜びはいつの時代も同じ、と語っておられるようです。

伝：荻津勝孝作
二つの絵巻を読み比べてみると…

三月、小坂町、羽後町など県内6カ所において、特別公開講座が実施されました。9日は生涯学習センターを会場に、『秋田街道絵巻』（秋田市立千秋美術館所蔵）並びに『秋田風俗絵巻』（県立博物館所蔵）を通して「江戸後期秋田の暮らし」に触れるものでした。

講師は、県立博物館高橋正学芸主事と生涯学習センター金森正也所長のお二人です。荻津勝孝作と伝えられる同一作家による異なる手法の絵巻をスクリーンに映し出し、2巻を読み比べるという企画はとても興味深いものでした。

『秋田街道絵巻』は久保田城から土崎までの街道筋の景観が日本画の特徴を用いて表されています。天守閣や石垣のなかった藩主佐竹氏居城や寺内焼きの煙たなびく八橋一里塚、天徳寺、不動院境内に郡立する庚申塚、八橋人形が並ぶ店先、山王八幡社の三重塔と展開し、虚空蔵堂の百度石、土崎の町並みに至ります。

『秋田風俗絵巻』は正月年札、通町の市、カマクラ、歳の神祭り、日吉八幡祭礼、端午の節句、田植えなどが人物表情も豊かに詳細に描かれています。しかし、明らかに「街道」絵巻と異なる描き方の視点の違いがあり、より象徴的な意味合いをもつ、と金森所長は絵解きをします。

年中行事で生き生きとした人々や秋田の生活を寿ぎつつ、日本海に浮かぶ米俵が積まれたおびただしい数の長船の舳先には佐竹の家紋の付いた旗が見られるなど御国の発展を意識しているというのです。

来年度の新企画講座『地域史を学ぶ楽しみ』に期待が高まったとの受講者の声が聞かれました。



街道絵巻～八橋一里塚からの俯瞰



風俗絵巻～土崎湊の賑わいと米を運送する船

自主企画活動グループ～活動紹介

洋の会



県民歌を踊る会員

日本舞踊同好の方々、定期的に第1・2・3水曜日の午後（1～4時）、生涯学習センター和室に集まり研鑽を積んでいます。古典をベースに民謡など目新しいものも取り入れています。「秋田音頭」や「秋田県民歌」などの秋田ゆかりの踊りが広がることを楽しみに、藤陰流の佐々木洋子さんを中心に活動を続けています。今年度は、6月に保存会の方をお招きして『西馬音内盆踊り～秋田の伝統芸能・本物にふれよう～』と題した学びと実技体験の自主企画講座を開催し、多くの一般の参加者に喜ばれました。また、2月には、県立聾学校を訪問し、子どもたちに「秋田の踊り」を伝え、共に楽しみました。さらに、活動を通してつながった人たちや興味関心のある方々に呼びかけ、『おひなまつり～踊り＆お茶会のコラボレーション』を企画・実践しました。会員は大勢の観客に緊張しながらも、張りのある舞姿で稽古の成果を披露してくれました。参会者からは、「それぞれの道で一生懸命に頑張る様子に触れ、自分が高められた一日でした」との声もありましたが、自主講座で学んだことを地域の婦人会や老人会行事などの活動に取り入れ喜ばれているという嬉しい報告が続きました。

お問い合わせ ～生涯学習センター学習相談員に気軽にお声をかけてください～